

おおくま

福島県大熊町
議会だより

2020

令和2年
11月1日発行

No.55

題字 大熊中学校3年 ^{さくま}佐久間 ^{かな}香那さん (平成28年度当時)

顔晴ったぞお～



家族も参加！大熊っ子運動会 (旧河東第三小学校)

9月
定例会

支出総額269億4479万円の決算を認定 3

町内での生活に必要な店舗が出店 5

町政を問う 町政一般質問 8

新しい題字20作品集まる 11

令和2年9月定例会 着実に復興進む

令和2年第3回定例会は9月10日から18日までの9日間で開催されました。

第1日目に町長より条例制定および一部改正、教育委員会委員の任命、令和元年度一般会計および特別会計決算認定、令和2年度一般会計および特別会計補正予算など34議案が提案されました。

第2日目は町政一般質問を行い「新型コロナウイルス感染症対策として町独自の検査体制の構築」、「帰町・移住者に独自のインセンティブが必要」などを取り上げ町政をたどりました。

第3日目以降は全員協議会にて議案調査を行いました。

第8日目の本会議では条例制定および一部改正、教育委員の任命、令和元年度一般会計決算認定など26議案を審議し、原案通り可決しました。

最終日の本会議では令和2年度一般会計補正予算など8議案、特別功労表彰に同意を求める2議案が追加され、10議案を審議し全議案とも原案通り可決し閉会しました。

なお、今回の傍聴者は延べ17人でした。



建設中の商業施設 早期の完成が望まれる

条例 大川原復興拠点内 公共施設の条例定める

診療所設置条例

地域住民の健康維持などに必要な医療を提供し安心して暮らせる環境を整備します。

交流施設設置条例

住民の交流や、町外からの来訪者との交流を促進し、地域の活性化を図ります。

商業施設設置条例

便利で心豊かに暮らせる生活環境を整備し、地域の振興を図ります。

宿泊温浴施設設置条例

住民の健康増進と観光および地域振興を図ります。

令和元年度決算認定 町内に生活基盤の整備進む



福祉サービスが向上します

グループホームおよび住民福祉センターなどの建設費や業務委託料です。

社会福祉施設整備事業
11億723万円

大川原地区災害公営住宅の整備費です。震災前の住宅への居住が困難な方を対象に建設しました。

帰還者向け災害公営住宅等整備促進事業
36億7036万円

大川原復興拠点の整備をさらに進めるための調査委託料です。

復興拠点整備事業
3億1313万円

支出総額269億4479万円を認定

一般会計の支出総額は、復興拠点整備事業、帰還者向け災害公営住宅等整備促進事業など大規模事業および特定原子力施設交付金、帰還環境整備交付金など基金積立金により269億4479万円の大型決算となり審議の結果認定されました。

特別会計は、やすらぎ霊園管理事業特別会計が新設となり、国民健康保険が21億7232万円、介護保険事業が11億3319万円の支出があり、その他の会計についても審議の結果、全議案とも原案通り認定されました。

会計名	収入総額	支出総額	差引き	前年支出総額
一般会計	281億8526万円	269億4479万円	12億4047万円	307億8244万円
特別会計				
坂下ダム施設管理	6751万円	5277万円	1474万円	4922万円
国民健康保険	22億1891万円	21億7232万円	4659万円	23億4877万円
奨学金貸与	977万円	962万円	15万円	4044万円
地域下水道事業	4907万円	4907万円	0万円	191万円
環境保全公共下水道	716万円	1万円	715万円	8576万円
農業集落排水	430万円	430万円	0万円	299万円
住宅団地造成	0万円	0万円	0万円	5万円
工業団地造成	0万円	0万円	0万円	5万円
中央台霊園管理	7万円	0万円	7万円	70万円
介護保険事業	12億2985万円	11億3320万円	9666万円	12億392万円
後期高齢者医療	2572万円	2525万円	47万円	2595万円
やすらぎ霊園管理	574万円	498万円	76万円	0万円

(万円未満四捨五入)

本来の目的を再考し 基金の活用を図るべき

代表監査委員より、決算および基金運用状況などの意見書が提出されました。主な内容を報告します。

令和元年度現在、財政調整基金が96億7401万円、その他目的基金約755億9771万円と潤沢な財源を抱えながら、健全な運営を進めていると言える。

一般会計の不用額については、前年度に比べて減額となっているが、精査可能なものも散見された。年度途中で明らかになった不用額は、できる限り減額補正などで調整し、かかる調整で得られた財源を他の行政サービスに充てる姿勢が必要と懸念される。

各種補助金に関しては被補助団体のうち残金を返還している団体もあるが、繰り越している団体もある。被補助団体が団体運営や事業展開で補助金に依存しないよう、経理等の透明性事業の公平性に一層努められることを望む。

基金については、復興関係の基金もあわせて当該基金が設置された本来の目的や現時点における意義を再考し、将来を見据えた基金の活用を図るべきと考える。当町は震災以前からの極めて有利な財務体質を維持しているが、状況はその都度変化しており、復興へ向けた計画的かつ有効な財源の活用が求められる。どのような状況下においても、健全な財政運営は自治体運営の要であり、今後も引き続き費用対効果を検証するなかで経費削減を図り、効率的な財政運営に努めることを要望する。

教育委員

教育委員の任命を投票により同意しました。

任期は令和2年10月1日から4年間です。



【氏名】松岡 保夫
【住所】下野上字原
【生年月日】昭和30年4月18日



【氏名】夏目 陽子
【住所】夫沢字中央台
【生年月日】昭和42年12月26日

人権擁護委員

人権擁護委員の推薦を求める意見を投票により同意しました。

任期は令和3年1月1日から3年間です。



【氏名】石橋 裕子
【住所】熊字滑津
【生年月日】昭和28年5月19日



【氏名】宇佐見 忠
【住所】熊川字久麻川
【生年月日】昭和30年3月6日



【氏名】植杉 文子
【住所】熊字新町
【生年月日】昭和30年8月1日

町内での生活に必要な店舗が出店

第3回定例会にて交流施設、商業施設、宿泊湯施設設置条例、財産の処分、令和元年度決算等の審査を行いました。その中から主な質疑を報告します。

商業施設設置条例

問 令和3年3月に完成する商業施設にはどのような店舗が出店するのか。

答 住民が生活するうえで必要不可欠な業種を出店させる。

食料品などを扱うスーパーや食事ができる飲食店、ファストフード店、日用雑貨店、電気店、美容室、コインランドリーなど9店舗が出店予定である。

宿泊湯施設設置条例

問 施設利用者に対し新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを整備すべき。

答 管理者決定後に早急に作成する。

やすらぎ霊園

問 整備した区画数に対し申し込みが少ないようだが、利用を促す方策は。

答 今後、町内外に広報誌などを利用して再募集していく。

用地交渉

問 下野上地区の拠点整備にかかる用地交渉では、将来的な土地の利用計画を示しているのか。

答 交渉には土地の利用計画を示し説明している。

文化財保護

問 大川原地区の有形文化財指定建造物が町に寄附される予定だがメリットは何か。

答 保護、継承に努め今後観光資源として整備公開、活用していく。

供養塔建立

問 原子力災害により殺処分となった家畜の供養塔をやすらぎ霊園の隣接地に建立できないか。

答 やすらぎ霊園の空き区画、隣接する土地の利活用を設置費用も含めて検討している。

企業誘致

問 誘致に関するアンケートを送付した企業数は。また調査に応じた企業は何件か。

答 アンケートを送付した企業数は約1万3千件で、調査に応じた企業は1376社となっている。



買い物が便利になります

問 有形文化財指定後に所有者からの登録取り消しは可能なのか。

答 文化財は所有者判断で登録を抹消することとは出来ない。建物の消失や解体などに伴い文化的価値が失われたと文化庁が判断した場合に登録が抹消される。

令和3年1月診療所開所

一般会計補正予算では診療所整備事業、農地保全業務委託、防犯灯設置工事、下野上地区復興拠点用地取得などの予算が計上され、全会一致で可決しました。
その予算概要と質疑内容を報告します。

診療所整備事業

3189万円

令和3年1月に大川原地区の住民福祉センター内に開所します。

南相馬市立病院より総合診療専門医の派遣を受けて週1回診察します。

投薬は院内で処方し町民が安心して生活ができるようにします。

農地保全業務委託

1億2000万円

令和元年度に下野上北向地区、野上秋葉台地区農地47診で実施した伐木・除草事業後の農地荒廃を防ぐ目的で、浜通り産ウッドチップを10^{トン}敷設する委託事業です。

防犯灯設置工事

2650万円

太陽光パネルを採用した防犯灯6基を、役場本庁舎北側町道沿いに設置します。

補助電源として風力発電装置・マイクロ水力発電を取り入れたハイブリット型とします。



ゼロカーボンに向けて

マイクロ水力発電

問 水力発電装置の設置目的は。

また設置場所はどこか。

答 再生可能エネルギーを活用した町づくりを目的に、本庁舎周辺に設置する防犯灯1基の補助電源とする。

商工会事務所近くの用水路に設置する予定である。

診療所

問 住民福祉センター託児室に診療所を設置するが、今後託児室が必要になった場合、どうするのか。

答 浪江町の認定保育園に通園するよう手配

する。

問 看護師は何名採用するのか。

診療日以外の業務はどうするのか。

答 看護職正職員1名
会計年度任用職員1名
計2名採用を予定している。

診療日以外は保健福祉課で保健業務に従事することになる。

防犯灯

問 防犯灯設置工事費で当初予算額以上の補正予算が計上されたがなぜか。

答 当初予算編成時に設置工事費、管理費等を積算していなかったことに気づき補正予算に計上した。

今後事業計画を立てる際には内容を精査し、漏れがないようにする。

特別功勞表彰の対象者2名を投票により同意しました。

特別功勞



松永 秀篤 氏

投票により
同意しました

平成15年11月より4期16年大熊町議会議員に在職。平成27年11月から令和元年10月まで議会副議長、令和元年10月から11月まで議会議長の要職を歴任し、地方自治の確立と町政進展に寄与された。

特別功勞



渡邊 利綱 氏

投票により
同意しました

平成3年11月より4期15年8月大熊町議会議員に在職。平成15年11月から平成19年7月まで議会議長の要職を歴任。平成19年9月より3期12年大熊町長に在職し、震災直後から町民の先頭に立ち復興に尽力された。

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の悪化に対し地方税財源を 求める意見書提出について

福島県町村議会議長会より意見書提出依頼があり、審議した結果全会一致で可決されました。委員会発委により意見書を提出しました。

意見書要旨は次のとおりです。

- ① 新型コロナウイルス感染症の拡大は甚大な経済的・社会的影響をもたらしており、国民への不安が続いている中で、地方税等の一般財源の激減が避けられない。当町では、昨年4月に避難指示が一部地域で解除されたばかりで、今後の財政運営は難しい状況になることが予想される。よって、国においては、左記事項を確実に実現させるよう強く要望する。
 - ② 万全の減収補填措置を講じること。
 - ③ 国税・地方税の政策税制については積極的な整理合理化を図り、有効性緊急性等を厳格に判断すること。
 - ④ 固定資産税は、制度の根幹を揺るがす見直しは、家屋・償却資産を含め断じて行わないこと。
- また、特例措置は今回限りの措置として、期限到達をもって確実に終了すること。

提出先

- 衆議院議長・参議院議長
- 内閣総理大臣・内閣官房長官
- 財務大臣・総務大臣
- 厚生労働大臣・経済産業大臣
- 経済再生担当大臣
- まち・ひと・しごと創生担当大臣

東京電力福島第一原子力発電所多核種除去設備等処理水に関する意見書提出について

「多核種除去設備等処理水」に関し、当町議会が協議を重ね審議した結果賛成多数で可決されました。委員会発委により意見書を提出しました。意見書要旨は次のとおりです。

多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会の報告書が2020年2月10日に公表された。その中で処分方法について、水蒸気放出及び海洋放出が現実的な選択肢であるとの提案がなされている。

全国の地方議会では処理水に関する決議書、意見書が可決されており陸上保管を継続するようにとの意見も出ている。

大熊町では2022年春に予定している特定復興再生拠点区域の避難指示解除に向けインフラ等の整備を進めているが、町民の帰還や新規移住者の増加のためには、福島第一原子力発電所の廃炉が国民の理解のもと安全・確実に進められることが必須である。

よって、本議会は、関係機関に対し、左記事項について要望する。

- ① 処理水を除去するための処分方法を早期に決定すること。
- ② 処理水の処分については、福島県民はもとより国民に対して、理解が得られるよう、広く情報を発信するとともに丁寧な説明をすること。
- ③ 処理水の処分により、新たな風評被害が発生しないよう、風評被害対策の拡充及び強化策を示すこと。

提出先

- 内閣総理大臣・経済産業大臣
- 復興大臣・原子力規制委員会委員長



千葉 幸生 議員

町政を問う 復興への課題をとらえて

問 町独自のPCR検査体制を整備すべき

答 感染拡大防止には有効な手段と考える

新型コロナウイルス感染症対策

千葉 当町で新型コロナ

ウイルスの感染者が発生した場合に、感染拡大を少しでも抑えるためには、町独自の検査方法としてPCR検査キットを使うべきである。

当町で唾液採取をし、

町長 町独自のPCR検査の実施は、運用方法を適正に行えば、感染拡大防止には有効であると考えている。対象者を町内の介護施設の関係者、役場職員、感染拡大地域への出張者などに限って検査を実施することには有効な手段である。

軽症者や無症状者の早期



PCR検査で感染を防ごう

問 町独自のインセンティブが必要では

答 不公平感のない施策を検討していく

帰町・移住者

千葉 町の復興のための第一条件である居住人口増加を促進することは、行政に課せられた喫緊の問題である。

そのためには、帰町や移住を促進する町独自のインセンティブが必要である。例えば、

新築する場合は上限を500万円、リフォームする場合は上限を300万円。高齢者と同

居する場合には、バリアフリー対策としてさらに50万円。賃貸物件を借りる場合、月額2

万円の補助など、検討の余地はあると考える。

帰町や移住者へのインセンティブの是非について問う。

町長 町民に対して公平性を担保した住まいの支援制度を創設するに当たっては、町民

個々の事情があり画一的な支援が困難な状況にある。

今後、町民が帰町を

選択できるような支援制度を構築する必要があると認識している。

支援の在り方については国、県の支援制度等の活用や、他自治体の先進事例の研究を行いながら、町内に戻る

選択をされる方々の中で、できるだけ不公平感のない施策を前向きに検討していく。

福島第一で使用
する工業用水

問 水道企業団から購入すべき

答 町から働きかける必要は無い

詳しくは大熊町ホームページにある町議会録画中継をご覧ください。

下野上地区拠点整備 用地交渉進む

7月21日委員会を開催し、所管事務調査を行いました。
主な内容をお知らせします。

用地取得

下野上地区拠点整備エリア内の用地交渉の進捗について説明を受けました。

対象の用地面積は、27万3466㎡であり土地該当者は84件、交渉件数は81件、そのなかで同意件数は62件(73.8%)との説明がありました。

今後のスケジュールは、地権者再交渉、移転補償費計上、9月下旬には建物該当者の交渉も開始するとの説明がありました。

まちづくり公社

まちづくり公社の活動についての説明を受けました。

不動産利活用支援事業の認知度向上と登録促進を図るため8月1日発行の町広報にチラシとアンケート用紙を同封し広報・周知を行いました。

今後は令和4年春に予定されている特定復興再生拠点区域の避難指示解除にむけて、丁寧なマッチングをしていくとの説明がありました。

委員からはまちづくり公社が、第二次復興計画に関する土地の利活用にも提言できるようにとの意見がありました。

おおくま産米の日本酒 お披露目待たれる

7月22日委員会を開催し、所管事務調査を行いました。
主な内容をお知らせします。

帰忘郷

水稻実証栽培についての説明を受けました。今年の大川原の作付品種は「コシヒカリ」

「こがねもち」「五百万石」の3種類でありそのうち「五百万石」については、酒米の実証栽培として43㍓を作付けしました。

収穫後、会津娘で知られる(株)高橋庄作酒造店に醸造を依頼しました。

名称については「帰忘郷」と命名され、年明けにお披露目予定との説明がありました。

委員からは今後のPR活動にも力を入れるようにとの意見がありました。

子育てビジョン

大熊町子育てビジョンについて説明を受けました。

町民の帰還が少しずつ始まり、町内で子育てができる環境の整備が必要となってくる。

ソフト・ハード両面から町内において整備する必要がある子育て支援策を明確にし、「大熊町子育てビジョン」として示し、町内で安心して子育てができる環境の整備を図るとの説明がありました。

委員からは大熊町子育てビジョンの策定において、教育施設に関する事項は早めに方針を示すべきとの意見がありました。

中間貯蔵施設の除去土壌 最終処分の工程は

7月16日に環境省より中間貯蔵施設の事業に関する説明がありました。

終了後、現地を視察しました。
説明要旨と主な質疑について報告します。

令和3年度に除去土壌搬入完了

説明要旨

今年度の事業方針は安全を第一に地域の理解を得ながら進め、令和3年度まで県内に仮置きされている除去土壌の搬入完了を目指す。施設の用地1600畝のうち1172畝、73.3%取得。1771名、75%の方から契約をいただいている。輸送実績は累計で800万立方メートルを達成し計画通り進んでいる。環境省は減容化再生利用の戦略と工程表に沿って、2024年度に向け基盤技術の開発を行っている。除去土壌の再生利用を踏まえ最終処分場の

構造・必要面積についての提示をこれから進めていきたい。

安全対策について幸い今年度は死亡事故など発生してないが、環境省職員や専門家らによる抜き打ち安全パトロールや講習など開催し、再発防止策の徹底を図っている。

主な質疑の内容

問 30年以内の県外最終処分の工程はいくつ示されるのか。

答 戦略目標年の2024年度までに基盤技術の開発を完了させることにしている。

最終処分の具体化については2024年度

以降進めていく計画である。

問 除去土壌の再生利用など情報発信を工夫しないと、多くの人に安全性は理解されないのではないか。

答 どのように理解をいただけるか、大きな課題と認識している。データ、映像を使いどうすれば安全性を発信できるかしっかり考えていく。

廃炉と処理水の現状つぶさに視察

9月30日、東京電力福島第一原子力発電所を視察し、廃炉作業の現状など説明を受けました。視察状況を報告します。

視察報告

構内では約4000人の作業員が廃炉作業に従事している。

今年度は3号機の燃料取り出し、原子炉建屋以外の建屋の地下にある滞留水を全部抜き取ることなどを重点に作業を進めている。

車内から、鉄骨むき出しで崩落した屋根などが積み重なっている1号機、燃料取り出しの準備を進めている2号機、かまぼこ型のドームに覆われた3号機、水素爆発で建屋の強度が弱くなっているという4号機を視察した。

1、2号機の高さ120メートルの排気筒は半分の60メートルまで解体されていた。

放射性物質トリチウムを含む処理水を保管しているタンク群や処理水の濃度浄化過程の説明を受けた。

終わりに、着実に安全に廃炉作業を進めていくことを要請した。



除去土壌の最終処分場はどこへ

新しい題字20作品集まる

議会だより第53号にて募集した議会だよりの題字が集まりました。力作20作品を紹介いたします。
題字は令和3年2月1日発行の議会だよりから順次掲載する予定です。
ご協力ありがとうございました。

<p>おおくま</p> <p>阿部 良枝 (下野上)</p>	<p>おおくま</p> <p>幾橋 みね子 (熊町)</p>	<p>おおくま</p> <p>泉 順子 (熊)</p>
<p>おおくま</p> <p>泉澤 麻実 (大川原)</p>	<p>おおくま</p> <p>泉澤 真佑 (大川原)</p>	<p>おおくま</p> <p>泉澤 美咲 (大川原)</p>
<p>おおくま</p> <p>泉田 幸重 (野上)</p>	<p>おおくま</p> <p>井戸川 寛子 (下野上)</p>	<p>おおくま</p> <p>菊地 秀文 (熊川)</p>
<p>おおくま</p> <p>佐藤 安良 (夫沢)</p>	<p>おおくま</p> <p>鈴木 真理 (下野上)</p>	<p>おおくま</p> <p>高橋 雅 (夫沢)</p>
<p>おおくま</p> <p>武内 一恵 (夫沢)</p>	<p>おおくま</p> <p>西山 香代子 (夫沢)</p>	<p>おおくま</p> <p>西山 太陽 (夫沢)</p>
<p>おおくま</p> <p>西山 陽菜 (夫沢)</p>	<p>おおくま</p> <p>西山 陽莉 (夫沢)</p>	<p>おおくま</p> <p>福尾 絹子 (野上)</p>
<p>おおくま</p> <p>眞方 恵美子 (下野上)</p>	<p>おおくま</p> <p>吉田 遙 (下野上)</p>	

(敬称略・50音順)

8年ぶりに戻ってきたふるさと



久しぶりの再会に話が弾みました

大川原地区の復興住宅地内で茨城おおくま友の会の皆さんと交流を行いました。

久しぶりに再会した方々と食事をしながら楽しいひとときを過ごしました。

避難先の会津若松市から8年ぶりに戻ってきたふるさと。

日々変わっていく大川原を見ながらどんな町が出来るかワクワクしながら暮らしております。

今年は実現しておりませんが、コロナが収束しましたらまた食事会を再開したいと思います。

私は北海道生まれです
ので、北海道の食材を使
った料理を食べて心もお
なかも満たしていただけ
たら幸いです。

山本 千代子
(☎090-7072-6611)



食事をしながら楽しいひととき

編集後記

昨年11月に広報公聴常任委員を拜命し
議会だよりの編集に携わらせて頂いてお
ります。

今後、今まで通り読みやすい・解り
易いを心掛け編集作業に努めて参ります
ので宜しくお願い致します。

さて、先日会津で大熊幼・小・中学校
合同運動会が開催されました。以前と比
べると在席している子供達は少なくなり、
寂しい思いはしましたが、子供達の笑顔
を振りまきながら楽しそうに演舞する姿
に何時しか寂しい思いは吹き飛び、応援
に夢中になっている自分がありました。

子供達の笑顔と楽しそうな声は、やは
り秋空に映えますね。

今見ている運動会の景色が大熊町で見
れるならどれ程かと思いました。

石井 和弘

広報公聴常任委員会

委員長	佐藤 照彦
副委員長	渡辺 誠
委員	石井 和弘
委員	島原 健二
委員	西山 英壽
委員	阿部 光國
委員	廣嶋 公治
発行責任者	吉岡 健太郎